

## 不登校児童生徒等への支援

### 【不登校や不登校傾向、いじめの被害により傷ついた経験のある子どもについて】

もともと長期休業明けは、不登校や不登校傾向の子どもが増える傾向にあります。また、いじめの被害により傷ついた経験のある子どもはフラッシュバックを起こしやすく不安定になりがちです。さらに、学校再開時は、新しい友達との出会いや担任交代等、新しい環境での生活など、希望と不安が入り交じます。

学校では、人間関係づくりを意図的に実施し、不安軽減を図ります。しかし、新型コロナウイルス感染症対策のため行動が抑制され、十分な人間関係づくりが進まないことが懸念されます。

学校での対応では、チェック票をもとにした子どもの実態把握を丁寧に行うことが大切です。学校での行動をしっかりと観察する中で「〇〇さんのおかげで助かるよ」、「頼りになるな」などの自己有用感を高める対応や自己肯定感を高める対応を心掛けましょう。

また、家庭との連携を強くして、子どもの対応にあたるとともに、必要に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の心理・福祉の専門家の支援へつないだり、相談機関や医療機関との連携に努めましょう。

### 【過去に虐待を受けた（疑われる）子どもについて】

過去に虐待を受けた経験のある子どもについては、感受性が高く些細な出来事に対しても反応する傾向があります。特に身に危険を感じる事象（新型コロナウイルスに感染して亡くなった方のニュースを見る など）に触れると心が不安定になりがちです。また、長期化する新型コロナウイルス感染症の様々な対応で、保護者のストレスも高くなるとともに、長時間家族と一緒に居る時間も増えることから、虐待の発生（再発）も懸念されます。

このようなリスクの可能性のある子どもと家庭に対しては、これまで以上の観察と配慮や連携が必要です。どんな些細なことでも学校は相談を受けることを伝えるとともに、安全確認や緊急一時保護についても確認しましょう。そのために、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用とともに、児童相談所や各市町村など関係機関との連携を強化してください。

具体的には、令和元年5月9日文部科学省「学校・教育委員会等向け虐待対応の手引き」に沿った丁寧な対応、および令和2年1月23日「学校現場における虐待防止に関する研修教材」を活用した校内研修による支援の充実を図るようお願いします。

### 【自宅での療育が不十分な子どもについて】

「低学年だけで留守番をしている」、「食事の用意がなく欠食せざるを得ない」、「マスクなどの用意がされずにいる」などの子どもの存在を認めた場合には、すぐに管理職を中心に支援会議を開催し支援方針を立てて保護者面談を行ってください。対応が困難な場合や要保護児童対策協議会で報告されている場合には、市町村や児童相談所に報告してください。

## 【自傷行為や自殺企図・自殺念慮などのある子どもについて】

### (1) 子どもの心理

自傷行為や自殺企図・自殺念慮などのある子どもについては、ある日突然、何の前触れもなく起きるのではなく、時間の経過とともに徐々に危険な心理状態に陥っていくのが一般的です。

#### ① ひどい孤立感

「誰も助けてくれない」としか思えない心理状態に陥り、頑なに自分の殻に閉じこもってしまいます。

#### ② 無価値感

「私なんかいない方がいい」などといった考えがぬぐいされなくなります。

#### ③ 強い怒り

自殺の前段階として強い怒りを他者や社会にぶつけることもよくあります。

#### ④ 苦しみが永遠に続くという思いこみ

自分の苦しみが、永遠に続くと思いきみ、絶望的になっています。

#### ⑤ 心理的視野狭窄

自殺以外の解決方法が全く思い浮かばなくなる心理状態です。

### (2) どのような子どもに危険が迫っているか

子どもが自殺に追いつめられる前に、大人は自殺の危険性に気付くようにする必要があります。

次のような特徴を数多く認める子どもには潜在的に自殺の危険が高いと考える必要があります。

- ・自殺未遂
- ・心の病
- ・安心感のもてない家庭環境
- ・独特の性格傾向（極端な完全主義、二者択一的思考、衝動性 など）
- ・喪失体験（離別、死別、失恋、病気、怪我、急激な学力低下、予想外の失敗 など）
- ・孤立感（とくに友だちとのあつれき、いじめ など）
- ・安全や健康を守れない傾向（最近、事故や怪我を繰り返す）

### (3) 学校の対応

子どもから「死にたい」と訴えられたり、自傷行為を繰り返す子どもに対応する際には、教師自身が不安になったり、その気持ちを否定したくなって、「大丈夫、頑張れば元気になる」などと安易に励ましたり、「死ぬなんて馬鹿なことを考えるな」などと叱ったりしがちです。しかし、それでは、せっかく開き始めた心が閉ざされてしまいます。自殺の危険が高まった子どもへの対応においては、次のような TALK の原則が求められます。

#### TALK の原則

- ① Tell : 言葉に出して心配していることを伝える。
- ② Ask : 「死にたい」という気持ちについて、率直に尋ねる。
- ③ Listen : 絶望的な気持ちを傾聴する。
- ④ Keep safe : 安全を確保する。